

いちのやむこうやま  
流山市 市野谷 向山 遺跡

市野谷向山遺跡は平成10年から調査が開始され、今回で7度目の調査です。今年度の調査では、旧石器時代の遺物集中地点2か所、縄文時代前期の竪穴住居跡2軒、古墳時代中期の竪穴住居跡3軒が見つっています。

古墳時代中期の方形の竪穴住居跡は、一辺が7.8mの大型のものと一辺が3mの小型のものが発見されました。このうち小型の竪穴住居跡からは、甕形(かめがた)土器や高杯(たかつき)、玉類の素材と考えられる蛇紋岩(じゃもんがん)の原石や玉類を作るときに使う砥石が見つっています。過去の調査でも勾玉の未成品などが見つっていることから、古墳時代中期の市野谷向山遺跡には、玉類の製作にかかわっていた人々が住んでいたようです。



竪穴住居跡の調査



遺物の検出状況



甕形土器、高杯、砥石等の出土状況

